

# 東光寺古墳(坂戸市)

前方が東光寺





# 東光寺

所在地 坂戸市大字小沼

東光寺は、薬王山浄水院東光寺と称し、新義真言宗智山派大智寺の末寺であり、本尊の木造不動明王坐像は享保十八年（一七三三年）に法橋幸慶が作つたものといわれている。当寺に關する古記録は、散逸して現存しないが、明治の末に編さんされた「三芳野村郷土誌稿」によれば「往古より一小池あり、幅五間、長八間にして、中に小島あり池水心の字の形をなす。老樹森立して之を繞り世塵を隔絶し静閑の地たり」と記され、承安元年（一一七一年）この清浄池に薬師如来の翠影彷彿として出現し、里人おそれて深く信仰し、以来、薬師如来を本尊として日光、月光菩薩十二神将を配し、かつ、かたわらに愛宕権現を奉祀したと伝えられている。

しかし一説では、元弘三年（一三三三年）新田義貞鎌倉攻めの折、鎌倉街道を通り別所山で休息していたところ東と西に光を放つところがあり、そのところに寺を建てて東光、西光の両寺としたとの伝承もあるが、いずれにしても、鎌倉街道をはさむ両寺は、往古の領主青木氏の菩提寺として、この地の信仰の中心となつていたものである。

昭和五十六年三月

坂戸市



例によって六地藏



仏足石



## 【 仏足石 】

仏足石とは、お釈迦様の足跡を印した物です。お釈迦様が  
入滅され現在のよ様な仏像が造られる以前は、お釈迦様の  
足跡を印し礼拝してきました。この仏足はインドグプタ朝  
五世紀の作りで最も古い仏足跡の模刻です。この仏足跡を  
合掌し礼拝した手で身体の悪い箇所を撫でると悪障を流  
し諸願を成就するといわれています。



薬王山 東光寺

収蔵庫



本堂









薬師堂









「お大師さま」とある



本堂の裏へ廻ってみる



前方が東光寺古墳(別名雷電塚3号墳)





墳頂には祠がある





墳頂から東を見る



墳頂から西を見る



側面から見る





裏手から見る









墓地から見る



本堂前にある池







